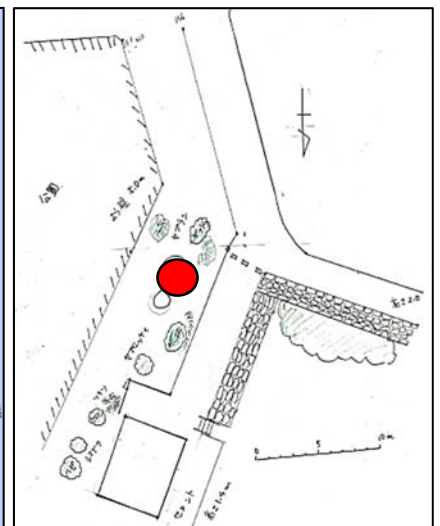


ノロ殿内のガジュマル



0 国土地理院 地理院地図 (電子国土 Web)

認定番号 61

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジュマル	学名	<i>Ficus microcarpa</i> L.f.					
形状・寸法	樹高 9.9 m	胸高周囲 5.2 m	根本周囲 4.8 m	樹幹占有面積 177.8 m ²								
	枝下高 2.5 m	枝張 東 3.8 m 西 8.3 m	南 8.3 m 北 9.7 m	最大樹冠幅 18.0 m								
通称	西原ノロ殿内のガジュマル		樹齢 110 年以上	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有							
所在地	南城市大里字大里488			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他			気象条件	月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 平均気温(°C) 15.3 16.1 16.7 19.1 21.9 25.2 降水量(mm) 42.5 268.5 220.0 105.0 416.5 346.5 平均風速 5.9 6.1 6.0 5.4 4.9 4.0 風向 N N N E ESE N							
	保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし (神木)			(最寄りの7 メースター)	月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 平均気温(°C) 27.4 27.0 26.8 23.4 20.6 15.6 降水量(mm) 280.5 197.0 87.0 168.0 77.0 94.0 平均風速 5.9 4.1 4.2 7.7 6.2 6.8 風向 SSE SW SE NNE N N						
周囲の状況		1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 (広場)				2014年	年平均気温 21.3 °C 最高気温 32.6 °C 年降水量 2302.5 mm 最低気温 9.1 °C					
	土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			潮風の影響		1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)					
土壌		1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()				日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良					
	基岩・母材				周辺樹木の影響		1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))					
地形		1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他				周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし					
	土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			周辺樹木との関係		1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている					
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし										

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質() 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他						
過去の治療歴と内容							
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明						
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)						
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ、シークワサー) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 生徒・父兄等						

地上部の衰退度判定（認定番号61）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ、大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.55

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

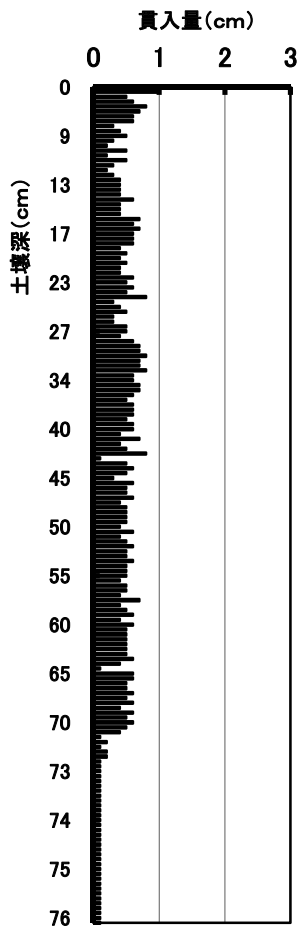
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○			
根返り		○			
幹折れ		○			
大枝折れ					○
中・小枝落下				○	
幹の傾斜の増大		○			
その他					

土壤調査結果（認定番号 61）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5YR3/2	0-5	粒状・堅果状	重埴土	7.5	2.1
II	7.5YR3/2	5-28	—	埴壤土		
III	10YR3/3	28-	—	重埴土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌は粒状・堅果状が混ざり、強粘質。通気性、排水性に乏しい。物理性は好適とは言えないが、適応して生育していると思われる。 ・土壌の厚さは約 70cm、以深は珊瑚石灰岩。 ・pH: 7.5、EC: 0.44(ds/m)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・深刻な根の障害は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
	<ul style="list-style-type: none"> ・古い根を新しい根が覆う。イチジクカミキリの食害痕は古い根に多いが、新しい根にも見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イチジクカミキリの防除を検討する。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・全面をオオイタビで覆われる。 ・樹皮の枯死・欠損が多く、イチジクカミキリの食害痕が散見される。 ・分岐部は古い幹の枯死欠損により空洞化しているが、腐朽は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オオイタビの除去、定期的な観察を検討し、幹の腐朽の進行、イチジクカミキリの早期発見に努めることが望まれる。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・中枝の枯死、ぶら下がり(南側)がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の除去を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・大枝、中枝から気根が垂下しているが、殆どが切断されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西側の 2 本の支柱根は特にカミキリに留意することが必要と感がる。 ・気根は切らずに支柱根に仕立てることが望まれる。 ・大枝の支持と支柱根誘導のため、支柱の設置を検討する。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・葉量が乏しく、かつ小型化し、やや黄化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・枝の衰退が原因と推察される。主因となっているカミキリの駆除を検討する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・オオイタビを除去したうえで各枝の腐朽の進展の状態の確認を行い、危険枝の切除の必要があると考える。 	

